

初回前十字靭帯再建時の年齢に着目した再損傷について

野中 岳<sup>1)</sup>

湯朝 友基<sup>2)</sup> 張 敬範<sup>2)</sup> 江本 玄<sup>2)</sup>

1)江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2)江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

【はじめに】

近年、前十字靭帯再建術(以下 ACLR)の適応年齢は幅広い傾向にある。当院では、ACLR を施行した症例に対し、入院時より再損傷予防に対する啓蒙を目的とした指導を行っている。若年者に再損傷が多い事は周知のことだが、当院も同様な傾向にあるのか調査を行った。



【対象・方法】

2006 年 5 月から 2017 年 10 月までに当院にて初回 ACLR を施行した

1069 例 1073 膝(男 502 例 502 膝、女 573 例 577 膝、平均 24.6 歳)のうち、

スポーツ活動を受傷機転に術後 6 カ月以上経過を追えた

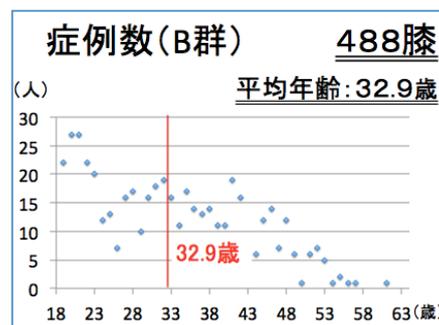
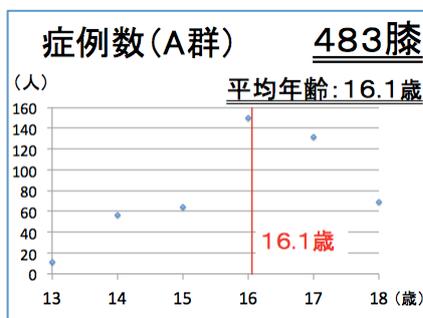
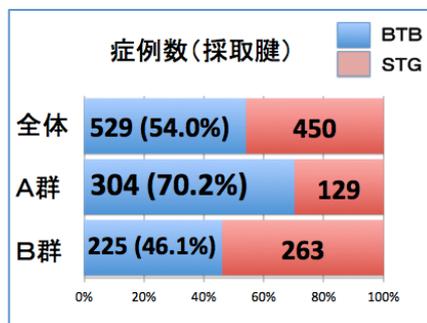
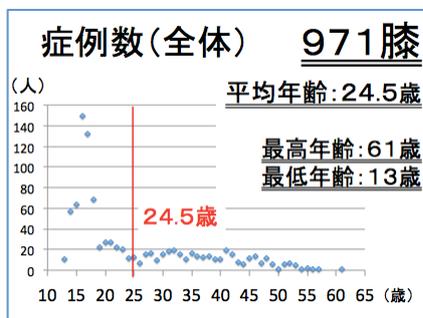
967 例 971 膝(男 443 例 443 膝、女 524 例 528 膝、平均 24.5 歳)を対象とし、初回 ACLR 時の年齢が

18 歳以下の 479 例 483 膝(男 162 例 162 膝、女 317 例 321 膝、平均 16.1 歳)を A 群、

19 歳以上の 488 例 488 膝(男 281 例 281 膝、女 207 例 207 膝、平均 32.9 歳)を B 群とした。

調査項目は症例数、再損傷件数、再損傷率、競技種目とした。

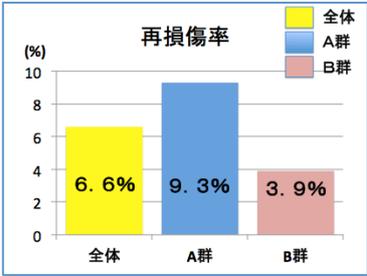
【結果】



初回再建術が 971 膝に対して再損傷例は 64 膝、再損傷率は 6.6%

A 群：初回 483 膝に対して再損傷例は 45 膝、再損傷率は 9.3%

B 群：初回 488 膝に対して再損傷例は 19 膝、再損傷率は 3.9%



再損傷競技種目

全体		A 群		B 群	
バスケットボール	21 膝	バスケットボール	14 膝	バスケットボール	7 膝
サッカー	10 膝	サッカー	8 膝	サッカー	2 膝
ラグビー	6 膝	柔道	6 膝	ラグビー	2 膝

競技別再断裂率

競技	全体	A 群	B 群
バスケットボール	6.9	6.5	7.9
サッカー	10.7	15.9	3.2
柔道	7.7	9.8	0
ラグビー	9.1	9.1	9.1
全体	6.6	9.3	3.9

【考察】

K. D. Shelbourne

18 歳以下の再損傷は 8.7% , 19 歳から 25 歳以下の再損傷は 2.6% , 25 歳以上は 1.1%

Am J Sports Med. 2009:37

Bourke

18 歳未満と 18 歳以上では Hazard ratio は 2.3 と 18 歳未満は有意に再損傷のリスクが増加

J Bone Joint Surg Br. 2012;94(5)

本研究においても先行研究同様に 18 歳以下の再損傷率は高い値を示した

若年者の再損傷が多い要因

- 競技復帰を強く望む症例が多い
- 競技に携わる時間が多い
- 競技活動レベルが高い

競技によっては 19 歳以上であっても再損傷率の高い競技が存在していることから  
年齢に限らず再損傷に対する啓蒙が必要

中谷ら（当院研究）

動画指導導入前後において再断裂率は導入前 6.0%に対し導入後 4.9%と軽減

九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 2013. vol. 25

2014 年より勉強会を開始し、実施前 7.1%に対して実施後は現在まで 2.9%と軽減

再損傷予防に対する患者教育はある程度の再損傷を防げる可能性がある

#### 【本研究の課題】

- 術者が複数名
- 術式が単一では無い
- リハビリテーションプロトコルが単一では無い
- 競技活動レベルが異なる

#### 【まとめ】

- 前十字靭帯再損傷に関し再建時の年齢に着目し調査を行った。
- 初回再建時に 18 歳以下の再損傷率は、19 歳以上に比べ 2.4 倍高い値を示した。
- 再損傷予防に対する患者教育は再損傷率を軽減させた。